

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 伊藤 雅之

研究課題		紀元前2～1世紀の地中海世界の外交
報告の概要	研究目的 および 研究概要	古代地中海世界の統合を進めていった古代ローマと、その隣人たちの外交・安全保障政策、あるいはまたそれに付随するより個人レベルでの活動の検討を碑文史料の収集と分析をメインに進め、現代世界を生きるにあたって集団として、そしてまた個人として利用し得る知見の獲得と社会への還元に努めた。
	研究の結果	今年度も前年度に引き続き、上記の時代・地域・トピックのものを中心に、過去の歴史家の叙述の手法やより広い意味での情報発信の手法への理解を深めることと、なおかつそれを、必ずしも歴史の専門家になろうとまでは考えていない学生たちに、社会人として生きていく上で役に立てることが可能な知見として提供することに力を注いだ。この中で得られた成果の一部は下記の学会報告および書籍の中での担当部分にて発表され、さらにまた文理学部の「西洋史講究」のように史学科の履修者が多いとはいえ様々なトピックの初歩を幅広く学びたい者のための授業、および、「欧米の歴史・社会・文化」や「英語で学ぶ文理融合」のような、史学科以外の学生も多く履修するそれで、その学びを実践的に活用することができた。
	研究の考察・反省	研究で得た成果を担当する授業に実際に出席している学生たちのニーズに即した形で提供するという点で、今年度もまた研究と授業の連動性の強化に見るべきものがあつたと考える。他方で、専門家に向けての論文の執筆という方面に関しては、今年度中はスケジュールの都合もあつて具体的な形で世に送り出すには至らなかった。次年度の課題としたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代史研究会特別研究集会 読者・聴衆の支持獲得という観点から考える過去へのアプローチ：ポリュビオスとリウィウスを出発点に 2024年10月27日/同志社大学 ・『歴史学の扉：歴史を学ぶということ』（関幸彦(編・著)・武井紀子・田中大喜・小川雄・古川隆久・福島恵・粕谷元・伊藤雅之・土屋好古・浜田晋介・山本孝文・平野卓治(著)) 2024年12月20日発行 山川出版社